

平成5年度福岡市民芸術祭参加

SEINAN CHANTEURS

'93 ANNUAL CONCERT

SINCE 1954

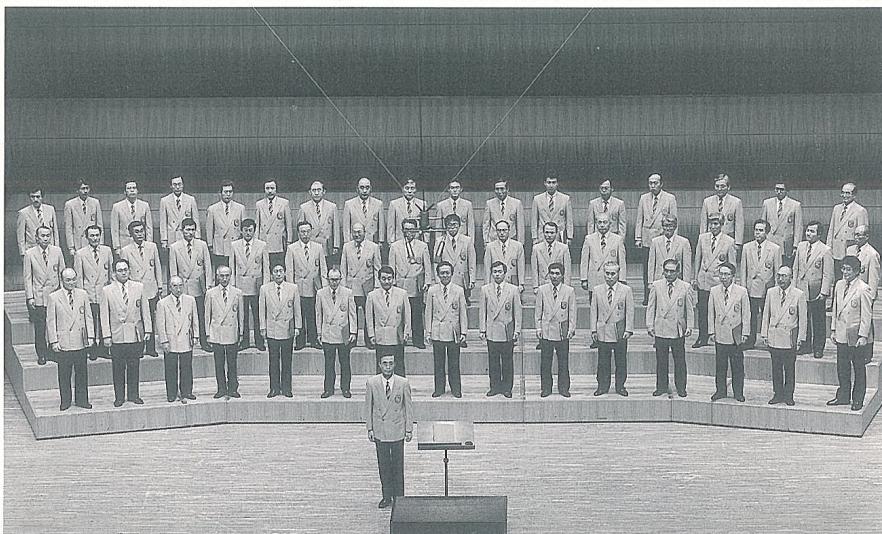


'93西南シャントゥール定期演奏会

賛助出演／西南ブリエール・西南フラウエンコール

1993.11/13土
メルパルクホール福岡

主催／西南シャントゥール
後援／福岡市民芸術祭実行委員会



Hail, Seinan

Seinan, our bastion of faith,
Vivid dream of a bygone year,
Crown'd with honor, love and truth,
Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater!
Lighthouse by the sea, radiant,
Gleams for her sons and daughters
With God's love, resplendent.

ごあいさつ



徳永麟之助
西南シャントゥール会長



内海 敬三
西南シャントゥール
常任指揮者

会場の皆様今夕はご多忙の中、ご来聴いただき有難うございます。ご承知のように、私どもシャントゥールはかつて西南学院に学び、グリークラブで歌っていた者達が、社会人になってもなお、男声合唱のハーモニーの魅力を忘れがたく、現指揮者内海敬三氏を中心に相い集い、歌い続けている数少ない社会人男声合唱団です。メンバーはそれぞれ社会的に重要な立場にある者ばかりで、一週間に一回の練習ですが、なかなかキチンと集合することさえ困難な状態です。結成当時は意気盛んで、全国合唱コンクールに西部地区代表として出場し、三位を獲得したこともありましたが、39年の中では活動が非常に低調な時期もありました。ようやく最近、メンバーの自觉と佐藤マネージャーのお世話とが相まって毎年定期演奏会を持つことができるようになりました。また最近は新しい曲にもチャレンジしております。今宵の「枯れ木と太陽」は古典的な組曲ですが、本当に力量とバイタリティーのある団体でないとちょっと手をやく代物です。どこまでご満足いただける演奏になるか、とにかく精一杯頑張るつもりであります。来年は創立40周年記念演奏会となります、北原白秋の詩集「思い出」の中から、作曲家多田武彦氏に曲を付けていただいた新曲をご披露いたします、どうぞご期待ください。なお、今回は同僚であります西南ブリエールと現役の西南フラウエン・コールの皆さんにご協力頂きました。有難うございました。ご来場の皆様どうぞ最後までお楽しみ下さい。心より感謝申し上げます。

今回の「枯れ木と太陽の歌」は、「月光とビエロ」「アイヌのウポボ」とともに、男声合唱の3大組曲といわれ、いやしくも男声合唱団であるならば、邦人作品で必ずとりあげるべき古典的名曲である。

「アイヌ」は一昨年の定期演奏会で取り上げたし、「月光」は機会あるごとに何度も歌つてきた。しかし、私は「枯木」には違和感を持ち、今まで取り上げるのを意図的に避けってきた。それは「枯木」の親しみやすさ、「アイヌ」の多彩さ、それに両者ともに無伴奏で、その上、作者の意図が極めて明確であるのに反し、「枯れ木」の音の使い方、特に密集した低音部や、伴奏のピアノとの関係が私自身納得いかなかったからである。

この度メンバーの強い希望もあり、遅説ながら取りあげることにしたが、練習を始めてみると、37年前の作品にもかかわらず、その男声合唱らしい激しく、ダイナミックな曲や、その中のほっとするような叙情性が極めて新鮮で、私はいつのまにかその魅力に引き込まれてしまっていた。

我々の力量で作者の意図が、どれほど表現できるか心配であるが、精一杯努力するつもりである。

演奏会が終わるとあちこちから様々な批評の言葉が耳に入ってくる。「良かったよ」と云うのがごく平均的なものだ。何処がどう良かったのか、突っ込んだ言葉はない。演奏会全体から受けた漠然とした印象だろう。我々にはそれで十分だ。お世辞半分と判っていても悪い気持はしない。中には言外に辛辣な批判を含んだ言葉もある。かなり音楽的素養のある人の場合だ。当然のことだが、批評はその人の音楽的バック・グラウンドによって千差万別。そしてどの批評に重みづけをして受け取るか、こんどは自分の音楽的レベルに関わってくる。厄介だ。素人団体が自分たちの弱点を幾分でもカバーしながら少しでもましなものをアピールする、そんな姿に会場の皆様がどう反応して下さるか、それを大切に受け止め、励みにしていきたい。そんな我々に、リチャード・ロジャーズの言葉はちょっとした安堵感を与えてくれる。「大衆が一体となった時の反応に、耳を傾けなさい。一人ひとりの反応を聞いてはいけません」(Listen to them when they are reacting as a mass—never listen to an individual reaction. RICHARD RODERS)

ご来聴、心より感謝申し上げます。

西南シャントゥール一同

PROGRAM

I Le Canzoni Italiani

1. Vieni sul Mar
2. Non Ti Scor Di Me
3. Funiculi-Funicula
4. Santa Lucia luntana
5. Core 'Ngrato (Catari, Catari)

指揮・編曲／内海敬三 伴奏／小賀直美

canzone／Veneziana
作曲／Ernest de Curtis
Canzone／Naporitane
作曲／Luigi Danza 作詩／Giuseppe Turco
作曲／E. Mario
作曲／Cardillo Salvatore

II Dreamin' Night

- 西南フラウンコール〈贊助出演〉
1. Alice in Wonderland
 2. A Spoonful of Sugar
 3. La-La-Lu

指揮／佐藤信子 伴奏／池見朋子

4. Heigh-Ho, Heigh-Ho
5. It's A Small World

III ロシア民謡

〈合同演奏〉西南プリエール／西南フラウエンコール／西南シャントワール

1. トロイカ 民謡／樂団カチューシャ訳詞／宮本良樹編曲
2. カチューシャ イサコフスキイ作詩／関鑑子訳詞／ブランデル作曲／中島良史編曲
3. バイカル湖のほとり 民謡／井上頼豊・中央合唱団共訳／宮本良樹編曲
4. ともしひ 民謡／イサコフスキイ作詩／樂団カチューシャ訳詞／松川義昭編曲
5. アムール河の波 シヴァリック・キュッス作詩／合唱団白樺訳／ヴァシリエフ・ボボフ作曲／宮本良樹編曲

IV 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」

1. 枯木は独りで唱う
2. 花と太陽の会話

指揮／内海敬三 伴奏／瀬川啓子
石井歓作曲／中田浩一郎作詩

3. 冬の夜の木枯しの合唱
4. 枯木は太陽に祈る

I . Le Canzoni Italiani

伴奏／小賀 直美
福岡女子短期大学音楽科(ピアノ専攻)卒業。中村順子、
中村寛子各氏に師事。現在、
ヤマハ音楽教室ピアノ講師。



Vieni sul Mar 「海に来たれ」

水夫あるいはゴンドラの船頭でしょうか、月夜に陸の娘さんを思って歌う恋の歌です。
「目覚めてください、お嬢さん、月が海にこんなに優しい光を投げかけています。でも、貴方は私
のことなど知らぬげに眠りについて・・・愛に燃える私は眠られません。心は昼も夜も貴方のも
とに飛んでいます。海に、舟に来て下さい。私と舟を漕ぐ喜びを分かちあって下さい」

Non Ti Scor Di Me 「忘れないで」

南に飛んでいった燕を恋人と見立てて歌われます。
「私のかわいい燕よ、おまえは口づけも、別れの言葉もなく、春を求めて飛んでいった。でも忘
れないでくれ、いまも私の中には君がいることを。私の命は君あってのものだ。いつも君を迎
える巣がここにあることを忘れないでくれ」

Funiculi-Funicula 「フニクリ、フニクラ」

皆さんよくご存じのイタリア民謡です。フランスもスペインも眼下に見えると言うほどナポリ郊
外のベスピオ火山は高かったでしょうか。それはともかく登山電車（ケーブル）ができた時の喜
びの歌と言われます。「行こう、行こう、火の山え、フニクリ、フニクラ」「フニクリ、フニクラ」
はロープづたいにフラフラと登っていくゴンドラのことか、そんな様子を表現した一種の擬態語
でしょうか。今宵のカンツォーネのなかでは唯一リズミカルな曲です。

Santa Lucia luntana 「遙かなるサンタ・ルチア」

聖ルチアはナポリの守護神なのでしょうか、詩の中ではナポリを離れていく船上から「サンタ・
ルチア、お前から離れていくのは何と寂しいことか」と歌っています。「海の上に登った月がナ
ポリの町をかすかに照らす。たとえ幸せを求めて世界中を巡るとも、ナポリが遠くなっていくの
はあまりにも淋しい・・・」

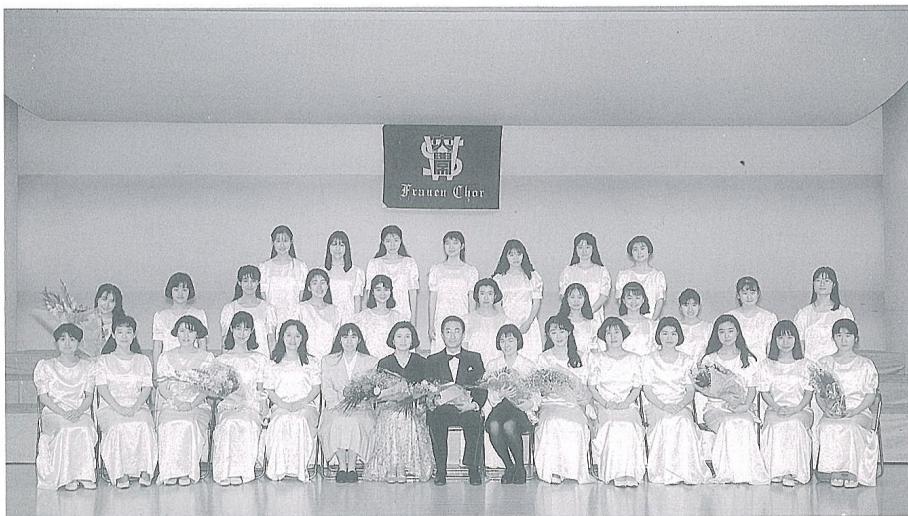
Core'ngrato (Catari,Catari) 「つれない心」(カタリ、カタリ)

男にとっても、女にとってもこの世で失恋ほどやるせないことはありますまい。
「カタリ、君はなぜそんなにつれない言葉をかけるのか。君はこの苦しい僕の思いを分かってくれ
ないのか・・・僕の人生を奪ったきみよ、君に捧げたこの心を忘れないでくれ、カタリ・・・つ
れない心よ・・・」イタリア男性特有の大袈裟、未練さでかたずけたくない、あまりにも切々と
した心情がこの曲からは伝わってきます。

II. Dreamin' Night ~ディズニーが贈る夢の世界~

〈賛助出演〉西南フラウエン・コール

今宵、私達フラウエン・コールがお送りしますのは、「美女と野獣」「アラジン」などの映画で再び人気を高めているウォルト・ディズニーの作品の代表歌、5曲です。どの曲も、きっと一度は耳にされたことのある曲ばかりです。ディズニーの作品は、子供だけではなく、大人の方でも十分楽しめ、そして感動できるものです。今宵演奏いたします曲も、皆様の心に残るようなすばらしいものになれば幸いです。どうぞ、それぞれの作品を御存知でしたら、その場面と一緒に、今宵のステージをどうぞお楽しみください。



フラウエン・コールプロフィール

今宵は西南シャントゥール'93定期演奏会に賛助出演させていただき、大変嬉しく存じます。

私共、西南学院大学フラウエン・コールは「明るく楽しく」をモットーに、そして今年は更に技術面の向上を目指し部員32名で日々練習しています。

今宵のステージでは西南シャントゥールの力強い歌声に加え、私共の女性らしい柔かさや優しさを感じ取って頂ければ幸いです。

今年で無事に創部25年を迎えることができ、12月17日(金)にメルパルクホール福岡にて記念定期演奏会を開催する運びとなりました。第3ステージの「ロシア民謡集」では西南シャントゥールをお迎えするにあたり、部員一同益々張り切っております。皆様の御来場を心からお待ち致しております。

III. ロシア民謡

〈合同演奏〉西南プリエール 西南フラウエン・コール 西南シャントゥール



指揮 馬頭 経明

1959年、西南学院大学商学部卒業。西南学院高校、大学を通してグリークラブに在籍在学中、学生指揮者。1954年、西南シャントゥール創設時に高校3年生で同級生4名と参加、合唱コンクールに出場。現在、ヤマハ株式会社九州支店勤務。



伴奏 濑川 啓子

福岡教育大学音楽科卒業。ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。独唱・合唱の伴奏者として活躍している。現在、西南学院大学文学部児童教育学科助教授。

トロイカ（郵便馬車トロイカが走るよ）

ロシア・ロマンスと呼ばれるロシアの都会の民謡。郵便馬車という題材は、19世紀の初めからロシア・ロマンスによく登場する。「氷の張った冬のヴォルガを郵便トロイカが走る、驅者は悲しい歌を口ずさみ頭を低くうなだれる。彼女を愛してはや一年、だが異教の村長の横恋慕で私は遠くへ追いやりられ……馬よ、おまえたちだけが僕の友、何処までも一緒に走って行こう」

カチューシャ

1938年プランデルの作曲だから、作曲者も分からず長く歌い継がれてきた真の意味での民謡ではない。ソ連時代になってからの大衆歌曲の一つである。さしづめ日本における中田喜直の〈夏の思い出〉などに当たるだろう。カチューシャは勿論女性の名前。「りんごと梨の花が咲きほこる岸辺、川面には霧が漂う、岸辺で歌うカチューシャの歌声は遙か離れた辺境の守りにつく恋人の元へ飛んでいく……この歌声を耳に聴き、故郷の地を守れ、私はあなたへの愛を大切に胸に抱いています」

バイカル湖のほとり

「トロイカ」と同様、19世紀のロシア・ロマンス（都会の民謡）の一つだが、最初はシベリヤの流刑者の間で歌われていたと言われる。「荒れたバイカルの草原を、運命を呪いつつ脱走者が肩に袋をのせさまよっている。眞実のために闘ったのだ、だがもう走る力も失せてしまった……眼前にバイカル湖が果てしない、放浪者はバイカルに近寄り、悲しい故郷の歌を唄い出す」

ともしう

作曲者不詳だが、1944年にイサコフスキイが詩をつけたソ連時代の大衆歌曲の一つ。「乙女は暗い夜、玄関口で前線に向かう若者に別れをつけた。霧がたちこめ、若者の姿は消え、ただ窓辺にたたずむ乙女の上に灯が赤くともっていた……前線の若者に手紙が届く、二人で誓った永遠の愛はいつまでも消えることはない、黄金の灯だ……兵士の胸に今広がる大いなる喜び、若者よ祖国のために、故郷の灯のために戦え」

アムール河の波

1947年の作。〈カチューシャ〉〈ともしう〉〈モスクワ郊外のタバ〉などと同様大衆歌曲。ゆうゆうと流れるアムール河と祖国の自然を高らかに贊美する曲。「アムール河がゆうゆうと波を運んでゆく、シベリアの風が波に歌いかける、波は泡をたててアムールの畔に樹々の梢がさらさらと……堂々と自由に波は進む。銀色のアムールは雄々しく流れ、我らはその静寂を守り、船は河を進み波は海へ向かっている。アムールよ、ざわめけよ……我が祖国を高らかに讃えよ……」

西南プリエールプロフィール

西南プリエールは1986年5月の西南学院創立70周年記念音楽会を契機として、又その年1月に亡くなられた西南学院大学教授森川和子先生の御意志を継いで、同年7月に結成された女子卒業生による女声合唱団です。現在団員は約25名、年令層は幅広いですが、皆んな和気あいあいとした雰囲気で練習に励んでいます。今年一月に念願の単独演奏会を開く事ができ、団員一同、第2回目の演奏会へと向けて張り切っております。



IV. 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」

Song of a Withered Tree and the Sun

作曲者の言葉

私たちが、日々人生における美しさの発見を重ねていくように、最近の私にとっての新しい経験は、男声合唱のみに存在する特殊な美しさに接したことありました。そしてその美しさ、その力強さ、表現の幅の広さといったこれらのかずかずの魅力に、否応なく引きつられて創られていったのがこの作品なのです。

この作品は、孤独なる人間の、人生におけるつきつめた哀歎といった、だれにでも通ずるであろう内容に基づいて一貫したイメージを持って、あらかじめ作曲し、それを私の心の友である中田君と、曲を訂正し、あるいは詩を訂正しながら作り上げて行ったもので、ある意味では、音楽と詩とが同時に生れてきた、とさえ言えると思っています。

これは私がある意図をもって、ことさらおこなったわけではありませんが、もしこの作品が、人々の心に触れ合う何物かを持ち、それを皆さんに感じていただけるとしたら、それは中田君の惜しまぬ努力によるものであります。

作詩／中田 浩一郎

I 枯木は独りで唱う

枯木は独りで唱う
枯木は独りきりで唱う
枯木は独りなのだ
枯木は独りきりだよ

今宵の月の出に
夜空に向かって
心こめて唱うよ
生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ
悲しい祭りだ

大地の深い眠り覚めよ
枯木は思うさま唱うよ

地軸をふるわせ 星にもどどけど
枯木は すべての思いこめて
夜空に向かって 唱うよ

神への願いだ
神への祈りだ
襲うは くろかけ
悪魔の 怒りだ

轟く かみなり
きらめく 光りだ
大地は狂うよ
この世の終わりだよ
天地は裂けるよ

Ha ha ha ha ha

枯木よ折れるな
枯木よ折れるな

悪魔に打ち克て
消え去れ くろかけ

枯木は独りで唱う
枯木は独りきりだ
独りで唱うだけだよ
ひとりで ひとりで……

そらごらん あの岡
そらごらん 野原を
花棘く 萌えるよ

そらごらん あの里
野は光り 鳥鳴く
陽は昇る 大空

II 花と太陽の会話

Lon lon lon lon lon

花の言葉 優しく
陽に向かいささやく
今日の恵み 悅び

花咲くあの岡越え
あの里 荷馬車は行く
はるかに…

今日の恵み 悅び
花開き 唱えば
陽は燃え輝く

III 冬の夜の木枯しの合唱

黒雲ひろがる 嵐が来る
足をふませて 枝葉をあげ

北風吹く 吹雪がくる
吹雪に耐え 克て 克て

葉っぱは落ちても幹はやせても
肩を並べて 力を合わせろ

嵐がくる 吹雪がくる
北風吹き 荒れ 鳴り
吹き 荒れ 飛び去る……

春の日 岡は暮れ
友と二人の思い出は
いまは去り
鐘の音のやさしく鳴りわたる

夕の祈り いつの日かかかる

樹々はしおれ 青ざめて
声もなく
我が身を嘆き
打ちふるえ涙く
春の日
岡に聞いた鐘の音よ

晴れわたる青空
陽は燃え めぐるよ
咲く花にほほえみ

散る花にささやき
やさし愛のぞみを
いつまでも忘れず

花咲くあの岡越え
はるかに
はるかに…

花咲くあの岡越え
はるかに
消えゆく 消えゆく……

花咲くあの岡越え
あの里 荷馬車は行く
はるかに……

IV 枯木は太陽に祈る

枯木は独りで唱う
枯木は独りなのだ
独りで唱うだけだよ

今宵の月の出に
夜空に真向いて
こころこめて唱うよ
生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ
悲しい祭りだ
生命のかぎり

枯木はいつも独りだ
聞い疲れ果て
傷つく躬を
励ましるって
枯木は思うさま 唱うよ

大地をふるわせ
のぞみを求めて
悲しいこころをいたわり

くこの世の平和と
この世の恵みこそ
我が願い 我がのぞみ
のぞみ のぞみ……

出演メンバー



西南ブリエール演奏会賛助出演('93.1)

トップ・テナー

内海洋一(S. 17卒)	高木正志(S. 34卒)	杉本哲也(S. 50卒)
秋根 武(S. 25卒)	出口幸一(S. 38卒)	加藤 聰(S. 56卒)
宮地基嗣(S. 29卒)	本山和文(S. 44卒)	中竹茂美(S. 58卒)
乙藤成美(S. 29卒)	山元一憲(S. 45卒)	



コールばかんず演奏会賛助出演('93.2)

セカンド・テナー

的野恭一(S. 28卒)	波多江忠(S. 35卒)	福田 治(S. 43卒)
福井 眞(S. 30卒)	徳永和彦(S. 36卒)	石松 茂(S. 44卒)
徳永弘道(S. 32卒)	中尾武史(S. 38卒)	窪田敏博(S. 46卒)
馬頭経明(S. 34卒)	佐藤宗一(S. 40卒)	波左間実(S. 46卒)

亀川正則(S. 54卒)



コロ・ステラ演奏会賛助出演('93.7)

バリトン

林 照樹(S. 24卒)	石川和義(S. 41卒)	首藤 純(S. 50卒)
内海敬三(S. 29卒)	森 博彦(S. 44卒)	富越健雄(S. 54卒)
鶴 嘉廣(S. 32卒)	松尾淳郎(S. 45卒)	池上和弘 <small>(OBマネージャー現役)</small>
和田正義(S. 36卒)	高川弘幸(S. 45卒)	



コロ・ステラ演奏会賛助出演・楽屋にて('93.7)

ベース

鶴原太郎(S. 15卒)	木道 昇(S. 29卒)	藤村文彬(S. 38卒)
山本昭輔(S. 20卒)	田中義信(S. 30卒)	夏秋毅昭(S. 41卒)
榎田裕一(S. 25卒)	松枝康匡(S. 36卒)	中垣 登(S. 47卒)
下川勝史(S. 26卒)	鈴鹿石根(S. 37卒)	岩崎嘉範(S. 55卒)

'93.

1月 西南ブリエール演奏会賛助出演(中央市民センター)

10月 将苑会発表会友情出演(メルパルク)

2月 コールばかんず演奏会賛助出演(下関市民会館)

11月 '93定期演奏会(メルパルク)

6月 福岡~オーケランドヨットレース祝賀会出演(アークホテル)

12月 西南フラウエン・コール定期演奏会賛助出演(メルパルク)

7月 コロ・ステラ演奏会賛助出演(長崎市民会館)

小野田市市民クリスマス演奏会(小野田市民会館)

西南シャントゥールと私④



嶺田 修
男声合唱団
コールばかんず
代表幹事

私達は『いつまでも少年です!』を合言葉に1987年2月下関に誕生した男声合唱団です。若干の合唱経験者と「何か面白いことが出来るかも知れない。」という興味本位のど素人(合計22名)でスタートし『音とれない!リズムにのれない!歌詞覚えられない!』という三重苦を抱え、またの名を「ヘレンケラー合唱団」として活動を重ね、下関地区では最もアクティブな合唱団としてその元気さ(一方では恥知らずとの評も...)に於いてのみ高い評価を得ております。

第5回という記念すべき定期演奏会を企画する段階で100人規模の大学グリークラブが表現する圧倒的なダイナミズム自分達も味わってみたいとの『夢』を実現するためメインステージに男声合唱団との合同演奏を実現しようということになりました。

伝統とその輝かしい実績において評価の高いシャントゥールさんに協力を要請しようと、という大胆なアプローチに対し、私達の素姓を十分に調査されていないにも係わらず、意外にもシャントゥールさんのご賛同が得られその度量の広さに、メンバー一同ただただ感激いたしました。

遠隔の合唱団同士の合同演奏の実現には当然いくつかの宿題を残しました。しかし、男性集団の持つ「おおらかさ」(或る人はこれを一いい加減さとも言いますが...)に助けられ特段大きな問題も無く、演奏会は無事終了いたしました。

シャントゥールの「アイヌのウポボ」(単独演奏)の熱唱で、我が合唱団の実力を下関の聴衆に曝すことになり、完全に「株を下げる」ことになってしまいましたが、最終ステージの幕が上がった途端ピシッとユニフォームで固め、舞台に整列した80人のオジサン達の姿に会場から「オー!」というドヨメキ。私達はそれだけで演奏会の成功を確信し、大いに満足していました。

素晴らしい出会いを感謝すると共に、定期演奏会のご盛会を心よりお祈り申し上げます。

39年目の苦腦

下関、長崎そして12月の小野田市公演と今年も3件の県外公演を消化することになる。来年の40周年記念演奏会のために、今年こそ公演数を減らすつもりであったが、結局8回の出演となってしまった。多忙なスケジュールを調整して協力してくれたメンバー各氏に紙上をかりて感謝申し上げたい。

今年は48人の陣容となった。50人をきったことは残念である。倉地進、小西真二両氏の転勤をはじめ健康を害された徳永麟之助会長、福田豊氏そして仕事の都合で戦列を離れている木下満裕、持田久、下村武俊、横尾和夫、毛利正明、宮地純各氏の一日も早い復帰を願ってやまない。そして加藤聰氏の参加と福田治、高川弘幸両氏の復帰は心強いかぎりである。来年こそは40周年記念演奏会だけに的を絞り、他の出演は一切辞退さして頂く覚悟である。多田武彦氏に委嘱していた北原白秋の詩「思い出」の組曲も完成し練習を開始した。「柳川風物詩」以来の柳川を舞台にした多田節の初演をご期待願いたい。 '94.11月11日(金)福岡サンパレス、石丸寛氏の客演指揮も決定。時を同じくしてグリーOB会全国組織の発会を計画中、OB諸氏はシャントゥール事務局にご自身と同期の方の最近の消息をご一報頂きたい。今年も多くの方々のご協力を頂きました。特に西南ブリエール、西南フラウエン・コールの皆さん友情出演本当に有難うございました。貴団の隆盛を期待申し上げます。貴重な週末をご一緒下さったご来場の皆様有難うございました。どうぞ来年もご期待下さい。

西南シャントゥール・マネージャー/佐藤 宗一
事務局/〒814-01 福岡市城南区長尾2-22-56
TEL092-531-1315 FAX092-531-1316

